

平成 20 年 度

## 第13回「リサイクル技術開発本多賞」

### 募 集 案 内

「リサイクル技術開発本多賞」は、長年、廃棄物リサイクルの分野に携わってこられた元・大阪市立大学工学部教授、元(財)クリーン・ジャパン・センター参与 故本多淳裕先生が、自らの著書出版印税を3R関連開発に従事する研究者・技術者等へ提供し、研究及び技術開発を奨励する制度として提案なされ平成8年度に設立された表彰制度です。

3Rに関係する研究・技術開発に従事される研究者・技術者の皆様のご応募をお待ちしております。

期限は、9月16日(火)必着です。

応募申請書提出先及び不明な点のお問い合わせ先

〒107-0052

東京都港区赤坂一丁目9番20号 第16興和ビル北館6階

財団法人クリーン・ジャパン・センター

TEL 03 (6229) 1031

FAX 03 (6229) 1243

## 財団法人クリーン・ジャパン・センター

この応募要領は、当センターのホームページ (<http://www.cjc.or.jp/>) “CJC からのお知らせ 平成20年度第13回「リサイクル技術開発本多賞」について” からダウンロード (MS-Word) が7月10日以降できます。申請書の様式としてご利用下さい。

## 応募要領

### 1. 目的

3 R (Reduce、Reuse、Recycle) 技術開発の分野で優れた業績をあげている研究者・技術者を顕彰する事によって3 R 関連技術の発展を奨励し、もって循環型社会の構築に寄与することを目的とします。

### 2. 対象

#### (1) 対象者

3 Rに関する技術の開発に従事し、優れた研究論文又は実効のある技術論文発表を行った国内の大学、高専、公的研究機関、民間企業の研究者・技術者(個人又はグループ)を対象とします。

#### (2) 対象分野

研究論文と技術論文の2区分で募集します。

研究論文は、主に国内の大学、高専、公的研究機関の研究開発、技術論文は、主に民間企業の技術開発という位置付けで、次の各項に該当する分野を表彰対象とします。

- ① リサイクルを必要とする資源の枯渇状況の調査、解析
- ② 廃棄物の発生抑制 (リデュース) に関する技術開発
- ③ リユース、リサイクルを促進する技術の研究開発
  - ・ リユースし易い製品の設計
  - ・ リサイクルし易い製品の設計
  - ・ リサイクルを進めるための有効なプロセスの開発
  - ・ リサイクル材料の有効な新規用途の開発
- ④ 前項②③に関連する技術及びシステムの実用化開発
- ⑤ その他、3 Rの普及・進展に貢献する効果的な技術開発

#### (3) 対象発表誌

論文は、5年以内に国内で発表されている次の学術誌、技術誌等に発表されたものとします。

- ① 当センター事業において発表されたもの  
(3 R先進事例(資源循環技術研究)発表会講演論文集、ニュースレター、各種事業報告書等)
- ② 資源リサイクルシステムセンター事業において発表されたもの  
(研究会講演論文、各種公開事業報告書等)
- ③ 廃棄物学会誌、エネルギー・資源誌、資源と素材誌等の各種学会誌、各種学会、研究発表会講演論文集等に発表されたもの

- ④ 月刊廃棄物誌、インダスト誌等の技術雑誌等に掲載されたもの
- ⑤ リサイクルに関連した特許公報
- ⑥ その他リサイクルに関する著作物、単刊本

### 3. 募集

公募（本人の申請）により報文を募集します。

なお、過去に一度申請して受賞から漏れたものでも再応募可能です。

- (1) 募集期間 平成20年7月10日（木）～9月16日（火）必着
- (2) 提出書類 申請書（添付所定様式）、当該報文、関連資料一式
- (3) 他の表彰との関連

過去に本賞を受賞された個人又はグループの応募はご遠慮願います。

- (4) 応募申請書提出先及び不明な点のお問い合わせ先

(財)クリーン・ジャパン・センター「リサイクル技術開発本多賞事務局」宛 担当：塩田  
〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目9番20号 第16興和ビル北館6階  
TEL 03(6229)1031 FAX 03(3432)1243  
E-mail shiota@cjc.or.jp

### 4. 審査

(財)クリーン・ジャパン・センター内に設置された選定委員会において審査を行います。報文内容（技術面、環境面）及び研究・技術業績等により総合的に審査されます。

### 5. 表彰

- (1) 表彰方法

表彰件数は2件以内とし（財）クリーン・ジャパン・センター会長名で賞状及び副賞（賞金50万円/件）を授与します。

- (2) 表彰決定

平成20年11月中旬の予定です。

- (3) 表彰時期・場所

平成21年1月下旬に大阪市で開催予定の資源循環技術研究発表会会場を予定しています。

添付資料

- ・過去12回の受賞案件
- ・応募申請書様式 付表-1 研究報文応募申請書  
付表-2 技術報文応募申請書

## 受賞案件一覧 (第1回～第12回)

(敬称略)

### (1) 第1回 (平成8年度)

① 報文名 「リサイクルと水熱反応」

高知大学理学部水熱化学実験所 教授 山崎 仲道

② 報文名 「使用済アルミニウム飲料缶 (UBC)のリサイクル」

グループ申請代表 (株) 神戸製鋼所 AR-PLAN グループ 大隅 研治

### (2) 第2回 (平成9年度)

① 報文名 「形状分離技術を利用したプリント基板廃材のリサイクリングに関する研究」

グループ申請代表 通産省工業技術院資源環境総合研究所 遠藤 茂寿

② 報文名 「都市ごみ焼却灰から製造されるエコセメント等」

グループ申請代表 秩父小野田(株) エコセメントプロジェクトチーム 安齋 達男

### (3) 第3回 (平成10年度)

① 報文名 「リサイクルの環境影響の定量的評価に関する研究」

関西大学工業技術研究所 中野 加都子

② 共同受賞・テーマ名 「火力発電所 EP 煤(すす)の完全再資源化と、回収バナジウム利用の省資源リサイクル型電力貯蔵用電池の開発」

報文名 「火力発電所電気集塵機捕集煤の完全再資源化について」

グループ申請代表 鹿島北共同発電(株) 後藤 政弘

報文名 「Vanadium Redox Flow Battery with Resources Saving Recycle Ability I.  
Production of Electrolytic Solution for Vanadium Redox Flow Battery  
from Boiler Soot」

グループ申請代表 通商産業省工業技術院電子技術総合研究所 野崎 健

### (4) 第4回 (平成11年度)

① 報文名 「近赤外分光測定とニューラルネットワーク解析を組み合わせたプラスチック廃棄物の非破壊判別」

グループ申請代表 通商産業省工業技術院物質工学工業技術研究所 田辺 和俊

② 報文名 「ポリプロピレンのラジカル転移型接触分解における反応制御」

東京大学工学部応用化学科 関根 泰

### (5) 第5回 (平成12年度)

① 報文名 「ライフサイクル戦略に基づいた製品設計のための QFD」

グループ申請代表 経済産業省産業技術総合研究所機械技術研究所 増井 慶次郎

② 報文名 「環境負荷の発生を抑制した高度リサイクル技術の開発」

グループ申請代表 トヨタ自動車(株) プラントエンジニアリング部 近藤 元博

(6) 第6回 (平成13年度)

① 報文名「高含水建設搬出土の改良システムの開発」

グループ申請代表 前田建設工業(株) 勝又 正治

② 報文名「水蒸気ヒートポンプによる省エネルギー蒸発脱水技術」

鹿島建設(株) 日野 俊之

(7) 第7回 (平成14年度)

① 報文名「汚染物のゼロエミッションを実現できる工業技術の提案を目指したユーカリから分離した各成分の有用資源化」

グループ申請代表 金沢大学工学部物質化学工学科 中村 嘉利

② 報文名「1,000t/y 規模パイロットプラントによる塩ビ樹脂脱塩素技術の検証」

グループ申請代表 日本鋼管(株) 総合材料技術研究所 浅沼 稔

(8) 第8回 (平成15年度)

① 報文名「活性金属蒸気を利用する貴金属の高効率分離・回収プロセスの開発」

グループ申請代表 東京大学生産技術研究所 岡部 徹

② 報文名「スチールグリットを利用した小型遠心式ブラストシステムによる産業廃棄物削減技術」

グループ申請代表 中部電力(株) 電力技術研究所 伊藤 博之

(9) 第9回 (平成16年度)

① 報文名「環境調和型設計のための製品ライフサイクルプランニング手法」

グループ申請代表 (株) 東芝 小林 英樹

② 報文名「家電リサイクル分野におけるゼロエミッションの達成」

グループ申請代表 東京エコリサイクル(株) 馬場 研二

(10) 第10回 (平成17年度)

① 報文名「廃棄物処理と再資源化の産業連関分析」

早稲田大学 政治経済学術院 中村 慎一郎

② 報文名「アルミニウムスクラップ溶湯中の微細介在物除去における高効率フィルターの開発について」

グループ申請代表 (株)神戸製鋼所 アルミ・銅カンパニー 技術部 柳川 政洋

(11) 第11回 (平成18年度)

① 報文名「Selective production of benzene and naphthalene from poly(butylene terephthalate) and poly(ethylene naphthalene-2,6-dicarboxylate) by pyrolysis in presence of calcium hydroxide (消石灰存在下におけるポリブチレンテレフタレート及びポリエチレンナフタレートの熱分解によるベンゼン及びナフタレンの選択的生成)」

東北大学大学院 環境科学研究科 吉岡 敏明

② 報文名「廃棄発泡スチロールの有効利用技術に関する一連の用途開発技術 (テプサム)の開発」

グループ申請代表 大成建設株式会社技術センター建築技術開発部 長瀬 公一

(12) 第12回(平成19年度)

①「環境適合製品の設計計画プロセスによる分解性設計」

東京造形大学デザイン学科サステナブルプロジェクト専攻 山際 康之

②「架橋ポリエチレンリサイクル材適用OC絶縁電線の開発」

グループ申請代表

古河電気工業株式会社環境・エネルギー研究所環境技術開発部 徳田 繁

以上